令和６年10月16日

金沢区シニアクラブ連合会　歩こう会実行委員会

～旧東海道　「神奈川宿」を歩く～

●日時　令和６年１０月１６日（水）　９：００～１２：００

●場所　京浜急行線　「神奈川新町駅」　改札口前

●コース　神奈川新町駅　―　神奈川通東公園（長延寺跡・土居跡）　―　良泉寺　―　笠のぎ稲荷神社（ 遠望）　―　能満寺（門前）　―　神明宮（社前）　―　神奈川小学校前「東海道分間延絵図」　―　金蔵院（門前）　―　熊野神社　―　高札場　―　神奈川地区センター（トイレ休憩）　―　成仏寺（門前）　―　慶雲寺　―　本陣跡　―　浄瀧寺（遠望）　―　神奈川の大井戸　―　宗興寺　―　権現山（幸ヶ谷公園）（トイレ休憩）　―　洲崎大神　―　普門寺（遠望）　―　甚行寺（門前）　―　（青木橋）　―　本覚寺（門前）―　東急東横線跡（東横フラワー緑道）（遠望）―　一里塚跡　―　大綱金刀比羅神社（社前）　―　台町の茶屋　―　神奈川台の関門跡　―　横浜駅　（　解散　）

旧東海道

日本橋から京都三条大橋まで約４９２ｋｍ。この東海道が本格的に整備されたのは、家康が関ヶ原の戦いに勝利した翌年の１６０１年（慶長 6）のこと。主要な街道に宿駅（宿場）を設け、役人の往来や物資の輸送、情報の伝達のために、人や馬を提供させる制度、いわゆる「宿駅伝馬制」が整備された。

宿の主な任務は、①人馬の継立　②旅人の休泊に対する施設　③通信業務の３つ。

① の人馬の継立とは、宿場ごとに人足、馬を常備し、旅客や物資などを次の宿場に継ぎ送ること。東海道の場合、はじめは各宿に３６疋の馬を用意させたが、寛永ごろには人足１００人、馬１００疋と規定された。

② の休泊の施設は旅籠屋や茶屋などのほか商店を用意し、特産物やわらじ、たばこなどの必要品を売っていた。

③ の通信のためには飛脚が必要であり、特に幕府の公用文書を入れた御用箱の輸送のため継飛脚を制度化していた。

こうした宿駅伝馬制は、奈良・平安の時代からあったものだが、時代の継承を経て改善され、安定した江戸時代になり総整備がなされたといえる。東海道をはじめとして中山道等五街道や脇往還なども順々に整備されていった。

東海道の場合も宿の数がはじめから五十三あったわけでなく、順次増えていき最後に設置された１６２４年（寛永１）の「庄野宿」（三重県）をもって五十三次が完成された。

神奈川宿

神奈川宿は東海道五十三次の三番目の宿場に当たる。中世以降神奈川の地は、品川・六浦

と並び陸海交通の要衝並びに物資集散地として繁栄してきた。こうしたこともあり１６０１年（慶長６）東海道の宿駅伝馬制度が定められると、当初神奈川宿は２番目の宿場として指定された。しかし神奈川宿と品川宿との距離は五里（約２０ｋｍ）と遠く、伝馬や人足の負担も大きかったことから、２２年後の１６２３年（元和９）に川崎宿が設置され、神奈川宿は３番目の宿場となった。

宿の規模は、江戸後期で問屋場１、本陣２、旅籠５８。宿内人口 5793 人、家数 1341 軒。東海道の中では小田原と並んで大きい方の宿場だった。

１．神奈川通東公園

ここは神奈川宿の江戸からの入り口に当たるところ。
昭和４０年（１９６５）に移転するまで長延寺という寺があった。（緑区に移転。）
開港当時（１８５９年）、長延寺にはオランダ領事館が置かれた。現在公園際に「オランダ領事館跡」の碑が立つ。

●土居跡・・・土を盛り上げて造った土手、堤のこと。東海道をはじめとする主要な街道の宿場の入口には、土居（見付）と呼ばれる堤があった。江戸寄りにあるものを江戸見付、京寄りにあるものを上方見付と呼んだ。この両見付の範囲が宿場の範囲となる。

「神奈川町宿入口土居絵図」によると、街道両側に高さ 2.5mの土塁が築かれ、その上に 75ｃｍの竹矢来が設置されていた。

●領事（館）・・・大使や大使館の外交官が自国を代表して派遣され、政府内の外交交渉や条約の署名調印を行うのに対して、領事は主に自国民や自国企業への行政事務・手続きや相手国民等に対するサービスの提供（ビザの発給、各種情報提供、文化交流）などが主な業務とされる。

領事は歴史的に、海外において商人間の紛争を仲裁した商事仲裁人に由来するといわれ、派遣国と任地国の通常の外交ルートとなるものではないという点で外交使節とは異なる。

●外国公館・・・神奈川（横浜）が条約上の開港場になると、各国はこぞって神奈川宿に外国公館を建てた。その後横浜に居留地が整備されると、皆そちらに移っていった。

２．良泉寺

もとは小机辺りに草創。１６４８年（慶安１）に現在地に移転。
開港時、幕府より外国領事館に指定を受けたが、住職はわざと屋根瓦を引きはがし、屋根を補修中との理由で幕府の命令を断ったことで知られる。

●田中糸平の墓・・・境内左奥に大きな墓域があるが、その真ん中が明治の実業家「田中平八」の墓。生糸取引で莫大な利益を上げ、「天下の糸平」と呼ばれた。隅田川ほとりに木母寺という寺があるが、伊藤博文揮毫による「天下の糸平」の大きな石碑が建つ。

３．笠のぎ稲荷神社　　（遠望）

笠を被った人が、この神社の前を通ると不思議に笠が脱げ落ちたことから、笠脱ぎ稲荷と呼ばれた。その後「脱ぎ」を「のぎ」と改めた。

４．能満寺　　（門前）

鎌倉時代の創建。

５．神明宮　　（社前）

江戸時代は能満寺に所属していた。
かつて境内を上無川が流れていたが、そこに牛頭天王のご神体が現れたことから、ここに牛頭天王を祀ったと伝わる。

●**牛頭天王**・・・インドの祇園精舎の守護神とされる。京都の八坂神社のご祭神。日本における神仏習合の神。スサノオノミコトの本地とされた。

６．神奈川小学校前「東海道分間延絵図」

江戸幕府が東海道の状況を把握するため、道中奉行に命じて作成したもの。
幕府はほかにも中山道等五街道に加え、それらに付随する街道地図も同時に作成している。
（「五街道其外分間見取延絵図」）
作成命令は寛政年間（１７８９～１８０１）で、完成は１８０６年（文化３）。
縮尺は､1 里を７尺２寸に縮尺している｡（１８００分の１）

７．金蔵院　　（門前）

現在の表門は、昭和４０年（１９６５）に造られたもの。　熊野神社の別当。

●**御手折りの梅**・・・江戸時代、境内には家康「御手折りの梅」の古木があり、毎年１月、当院住職が梅の一枝を携えて江戸城に登城するのが習わしだった。

８．熊野神社

もとは権現山の頂にあったが、江戸時代の中頃に金蔵院の境内に移され、明治のはじめに
現在の場所になった。神奈川郷の総鎮守であり、また海上安全の守護神として崇敬された。
入口に立派な狛犬が並ぶが、戦後進駐軍にブルドーザーで倒され、瓦礫の中に廃棄された
経過を持つ。

９．高札場（神奈川地区センター内）

法令や禁令などの触書を木の札に記し掲げたところ。橋詰めや町の辻など人通りの多い場
所に設けられ幕府の威信を示すため土台を一段高く造り、柵などで囲って保護した。
この高札場は、もとは滝の橋のたもとにあったもので、往時をしのんでここに復元した。

１０．成仏寺　　（門前）

開港当時、アメリカ人宣教師の宿舎として使用された。
アメリカ人宣教医師ヘボン博士は本堂に、ブラウン宣教医師は庫裏に宿泊した。

●ヘボン博士・・・１８１５～１９１１年。（９６歳没）

１８５９年（安政６）来日。成仏寺に宿泊し、宗興寺にて診療を開始。
１８６２年（文久２）生麦事件では負傷者の治療に当たった。
１８６３年（文久３）横浜居留地に移居し、男女共学のヘボン塾を開設。
１８６７年（慶應３）日本で最初の和英辞典「和英語林集成」を編集。
辞典の日本語はローマ字表記を採用した。
１８８７年（明治２０）明治学院を創設し、初代総理（学長）に就任。
１８９２年（明治２５）妻の病気のため離日。

１１．慶雲寺

開港当時、この寺はフランス領事館に充てられた。　浦島観音を祀る寺として知られ、浦
島寺とも呼ばれる。
観福寿寺の浦島太郎伝説・・・神奈川町の東側（現浦島丘）に観福寿寺という寺があり、ここに伝わる浦島太郎伝説に関する資料が残されていた。ところが慶応年間の大火により焼失し廃寺となってしまったため、これらの資料がこの慶雲寺にもたらされた。以来浦島太郎伝説は、慶雲寺により引き継がれ現在に至っている。この界隈の地名には浦島丘、浦島町、亀住町など浦島伝説にかかわる呼び名が残る。

１２．本陣跡

神奈川宿には２つの本陣があった。神奈川宿の中心に「瀧の川」が流れ、その東側（江戸寄り）には神奈川本陣（石井家）、西側（京寄り）には青木本陣（鈴木家）が位置していた。

●本陣とは・・・もとは戦陣における武将の本営のこと。それが転じて武将の宿泊所をさすようになった。本陣には勅使、院使、宮、門跡、公家、大名、高家、旗本などが休泊するのを原則とした。本陣に大名が泊まれば、その家臣らは宿内の旅籠や寺院、百姓家などに分宿するのが一般的だった。

１宿場当たりの本陣の数は、東海道の場合 2.1 軒平均だった。(天保時代の調査)

１３．浄瀧寺　　（遠望）

開港当時、イギリス領事館に充てられた。本堂をはじめ諸所にペンキが塗られたという。鎌倉時代、日蓮が鎌倉への途次当地に立ち寄り、妙湖尼はその薫陶を受け、自らの庵を法華経の道場に変えたと伝わる。

１４．神奈川の大井戸

宗興寺の裏手の井戸は、神奈川の大井戸と呼ばれ旅人には名水として有名だった。

２代将軍秀忠のとき茶の湯に供されたり、明治天皇が神奈川本陣にご休息のとき「御用水」としても使われた。

●**お天気井戸**・・・不思議なことに、天気になると水量が増え、天気が悪くなると水量が減るということで、明日の天気が良く分かったと伝わる。

１５．宗興寺

宗興寺の中に施療所がおかれた。ヘボン博士は成仏寺から通い、この宗興寺で施療を行った。

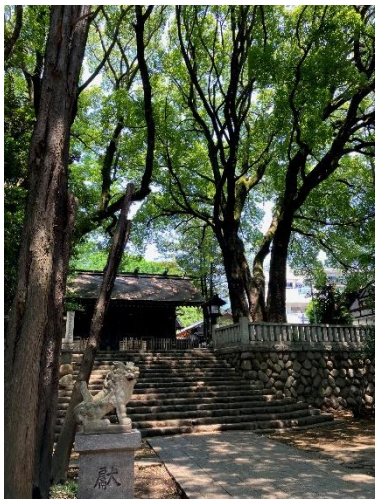
ヘボン博士とほぼ同時期にアメリカ宣教医師として来日したシモンズも、この宗興寺を宿舎として診療に当たった。シモンズはその後十全病院（のちの横浜市立大学医学部）で多数の外科手術を行い、子弟を教育した。横浜の近代医学の基礎はこの二人の宣教医師によって築かれたとされる。

１６．権現山（幸ヶ谷公園）（トイレ休憩）

現在の幸ヶ谷公園や小学校辺り一帯は「権現山」と呼ばれる丘陵地帯で、「東海道分間延絵図」の中では、左手にひと際高く描かれている。「権現山」という名の由来は、この山頂に熊野権現社があったことによる。

ペリー来航以降、この地域の形状は大きく変わった。神奈川台場の建設、鉄道用地の埋め立てなどで山が大きく削られ、台地に変わった。また明治５年の新橋・横浜間の鉄道開設により、元来ひと続きだった本覚寺側との間も分断されてしまった。

１７．洲崎大神



ご祭神は天太玉命（アメノフトダマノミコト）、天比理刀売命（アメノヒリトメノミコト）。
青木町の総鎮守。1191 年（建久２）頼朝が安房国安房神社（館山市　安房国一宮）の神を勧
請して創建したとされる。現社殿は昭和 31 年（1956）の再建。６月６日以降の金・土・日で開催される例大祭は、神輿渡御、山車巡行、宮前商店街の露
店などでにぎわう。

●神奈川港・・・参道の先は海岸線であり船着き場だった。14 世紀末ごろから品川・六浦と並んで物資の集散地として繁栄していた。「宮の河岸」と呼ばれた。
この船着場から開港時の横浜へ向け船が行き来した。

１８．普門寺　　（門前）

開港当時、イギリス士官の宿舎だった寺。洲崎大神の別当寺。

１９．甚行寺　　（門前）

開港当時、フランス公使館に充てられた。

２０．本覚寺　　（門前）

１２２６年（嘉禄２）創建（開山　栄西）。もとは臨済宗だったが、１５３２年（天文１）曹洞宗に改宗。

１８５９年（安政６）７月４日アメリカ領事館が置かれた。（７月１日に横浜が開港したが、アメリカは７月４日が独立記念日に当たるため、この日に合わせ開設した。）
今も残る山門は、当時白いペンキで塗られていたというが、今でもかすかに白いもの見ることができる。１８６３年（文久３）関内の外国人居留地に移った。

●生麦事件・・・１８６２年（文久２）薩摩藩主島津久光一行が江戸からの帰途、生麦にさしかかったところでイギリス人４名の非礼を咎め３人を殺傷した事件。4 名の内一人は女性で、男性一人が死亡。他の２名が傷を負いながらも馬で本覚寺に駆け込んだ。この時手当てに当たったのがヘボン博士で、二人は一命をとりとめた。
　これが原因となり翌年イギリス艦隊が鹿児島沖に来航、薩英戦争が起きる。これに敗れた薩摩藩は、これまでの攘夷派から開国派へと転換した。

●岩瀬肥後守忠震顕彰碑・・・１８１８～６１年（４４歳没）。幕臣。外交家。
老中阿部正弘に登用され、海防・外交の第一線に立って開国政策を推進した。
１８５８年（安政５）日米修好通商条約締結時における日本側の全権委員。
勝海舟らの人物を登用し、開明派官僚の第一人者と目された。

将軍継嗣問題では一橋派の中心人物として行動したため、大老井伊直弼に罷免され失脚した。

２１．東急東横線跡（東横フラワー緑道）　（遠望）

２００４年２月みなとみらい線（横浜～元町・中華街駅）開業に伴い、東急東横線の反町駅と横浜駅間が地下化された。これに伴い東白楽～横浜までの線路跡 1.4km の緑道化が進められ、２０１０年（平成２２）に「東横フラワー緑道」として完成を見た。

２２．一里塚跡

日本橋から７つ目の塚。今は跡形もないが、大綱金刀比羅神社の鳥居横辺りにあった。

●一里塚・・・江戸幕府は１６０４年（慶長９）、日本橋を起点に主な街道の一里（４ｋｍ）ごとに塚を築くよう命じた。旅人はこれを行程の目安にし、その木陰を休息場所とした。現在原型をとどめる一里塚はほとんど見なくなったが、近隣では東京板橋区にある中山道の「志村の一里塚」は、5 間四方の塚に榎の植え込みとほぼ原形に近い形で残る貴重な一里塚である。

「くたびれたやつが見つける一里塚」（古川柳）

２３．大綱金刀比羅神社　（遠望）

もとは「飯綱社」と言われ、現境内の後方上にあった。その後琴平社を合祀して、大綱金刀比羅神社となった。

２４．台町の茶屋

この「台町」というのは、かつて「神奈川の台」と呼ばれたところで、神奈川港を見下す景勝の地だった。広重の描く「東海道五十三次之内　神奈川台之景」によって描かれた場所。絵の中に「さくらや」とあるが、ここが現在の「田中屋」のあたり。１８６３年（文久３）田中屋の初代晝間弥平衛が「さくらや」を買い取り、現在に至る。

２５．神奈川台の関門跡

開港後外国人が相次いで殺傷される事件が起きた。各国からの非難への対応として横浜周辺の主要地点に関門や番所を設け警備体制を強化することにした。この神奈川台の関門もその一つで、西側の関門の役割を担った。

●生麦事件の後・・・島津久光一行はイギリス軍などの追撃を案じ、予定していた神奈川宿の泊りを変更し、当関門台を通り次の保土谷宿まで行って宿泊した。関門は久光一行が通過した後、直ちに閉められたと伝わる。

以上